

## ○生成 AI の活用

- ・色々なサービスを比較して、使いやすいサービスを選択すると良いと思う。
- ・生成 AI はいつから導入予定か。  
→今月中に全庁展開を予定している。
- ・活用すること自体に労力を要する。時間を割いて学ぶ時間を作っていくことが大切。
- ・Excel 関数や VB 等のコード作成で効果を感じている人が多いように感じる。
- ・生成 AI を使える環境ができていても、使う人と使わない人が出てくるので、使う人の年齢構成などの傾向を分析すると、全体へ広めていく時の検討材料となる。
- ・職員が使いこなしていかないと成果がでないと考えるが、どのように使うことへの抵抗感を無くしていくのか。  
→これまで、生成 AI とはどのようなものか、使うために気を付けないといけないことについての外部講師による研修を行ってきた。今後の取り組みについては、検討していきたい。
- ・生成 AI を、こんな事に使ったら便利だったということの共有も考えるとよい。
- ・生成 AI を使って得た成果物に対してのトラブルについての対応は、事前に考えた方がよい。  
→ガイドラインのなかで、生成 AI で作成したものは確認してから使うことを明記し、あくまでも生成 AI はアシスタントとして使用する。
- ・優れたプロンプトを周知する仕組みは作ってもらいたい。職員の能力開発にも繋がっていく。
- ・AI 活用コンテストのようなもので、活用が進むのではないかと思う。

## ○防災 DX

・非常用持ち出し袋の持ち出し率が少ないとあったが、どのように向上させるのか。  
→地域で防災訓練などを行う際に、防災に関する「かがやき発信講座」を同時に開きたいとの依頼件数が増えている。非常用持ち出し袋の重要性や何を入れるのかを周知していく。

・大きな津波が来ると聞いて、車で逃げて渋滞してしまうということへはどのように対応していくのか。

→金沢市では津波の影響はそれほど大きくないと想定しており、影響のある可能性のある地域は沿岸部に限られるため、平常時から津波のハザードマップについて市民に周知していきたい。

・防災 DX への取り組みは、実際の災害対応をする部署で行うのか。どのような市の体制で行っていくのか。

→全体のとりまとめは危機管理課になるが、デジタルの部分についてはデジタル行政戦略課も協力して取り組んでいく。

・熊本地震の際は、地震が怖いという理由で避難所ではなく自家用車で避難生活を過ごす人が多かった。避難の方法については、地域の事情も関係するのではないかと思う。

・人が集中してしまう混乱を避けるため、備蓄を配れないということもあるので、備蓄や資機材の管理方法や配布方法について考えておくことも必要ではないか。

・熊本地震の際、タブレットでの防災支援のシステムは既に導入されていたが、地域によってはシステムに入れないこともあり、システムはあったけど使えなかったという話も聞いた。一部アナログを残しておくなどの対応も検討していただきたい。

・石川県の生活支援制度をオープンデータ化してガイドサービスとして利用しており、金沢市版を作ることはすぐにできると思う。支援制度のオープンデータ化については、国のフォーマットが提供されている。

・金沢で大きな地震が起きた際には、電気が通じないことも考えられ、デジタルは便利だけれど、上手く活用できないこともあるため、その際の対応については事前に計画を立てておかないといけないと思う。

→すべてをデジタルに頼ってしまったら、通信網がなくなってしまった時に対応ができなくなってしまうため、リスク管理もあわせて考えていきたい。

- ・情報収集については、どのようなデータをどこから収集するか、どのような手段を活用するかを整理していく必要がある。

- ・スピーカーから出る音に通信ができる特殊な音を乗せ、音の聴こえる範囲にあるスマートフォンなどの様々なデバイスに情報を伝えることができる音響通信技術の活用も検討していくとよい。